

第1回バイオマス活用事業実現可能性検討委員会
議事要旨

■年月日：平成30年7月24日(火) 13:15～15:10

■場所：大熊町役場 いわき出張所（2階多目的ホール）

■参加者：【検討委員】（敬称略）

双葉地方広域市町村圏組合 事務局長 秋元 正國 （委員長）

大熊町役場 副町長 吉田 淳 （副委員長）

国立研究開発法人・食品産業技術総合研究機構 水域環境ユニット長 山岡 賢

福島大学 教授 新田 洋司

福島大学 特任准教授 石井 秀樹

国立研究開発法人・食品産業技術総合研究機構 調整役 野中 章久

福島県相双農林事務所 双葉農業普及所 所長 佐久間 秀明

大熊町役場 産業建設課長 柳田 淳

【事務局】

大熊町役場 産業建設課長補佐 澤内和彦

大熊町役場 産業建設課 主任主査 東 裕行

大熊町役場 復興事業課 森 俊貴

福島県 企画調整部 避難地域復興局 副課長 八巻 正則

(株)アグリパートナーズ 小野寺 健一

■資料：資料1 バイオマス活用事業実現可能性検討委員会 設置要綱

資料2 バイオマス活用事業実現可能性検討委員会 委員名簿

資料3 バイオマス活用事業実現可能性検討委員会 傍聴要綱

資料4 バイオマス活用事業 概要

資料5 バイオマス活用事業実現可能性検討委員会 趣旨等

資料6 今後のスケジュール（案）

資料7 バイオマス活用事業 検討課題（案）

資料8 平成29年度調査報告書 概要

（傍聴者は資料1～6）

■概要

- ・開会后、委員長挨拶、委員・事務局自己紹介
- ・事務局による設置要綱読み上げ、事業概要説明、検討委員会趣旨説明、5ヶ年スケジュール案説明、検討課題提案により、必要な情報及び課題の共有
- ・上記を踏まえ、本検討会での検討課題の洗い出し
- ・第2回検討委員会：8月28日（火） 現地視察（傍聴無し）

■主な意見等

(営農、栽培手法等について)

- ・エネルギー作物それぞれの具体的な収穫、細断方法を把握する。
- ・通年で収穫し、施設へ供給できるような栽培の組み合わせを構築することが望ましい。
- ・除染後の客土は山砂だが、下部の粘土層が水を通さないため、排水性の悪い圃場が多く見られる。地力回復も含めて対策が必要。

(メタン発酵について)

- ・既存の国内設備では家畜糞尿等、高含水率の原料を主体とするため、湿式が多く採用されてきた。イネ科等の草本を原料とするのであれば、乾式も候補となってくる。
- ・湿式は技術が確立されており、パッケージの施設として導入できる。
- ・湿式、乾式ともに原料から得られるバイオガスの総量は変わらないが、湿式は多量の水を混ぜるため施設が大型化する傾向にあり、乾式の方がよりコンパクトな施設となる。
- ・湿式では消化液が大量に発生し、散布時期まで消化液を保管しておく大容量のタンクが必要。
- ・湿式、乾式ともに消化液・発酵残渣の利用方法が十分に確立されていない。
- ・乾式は国内での実績がほぼないため、発酵残渣の肥料成分分析が不可欠。
- ・家畜等の糞尿を原料とする場合は、アンモニア対策が必要。湿式では水で希釈されるためさほど気にする必要はないが、乾式の場合にはどういった対策を取るべきか検討が必要。
- ・芋類等のでんぷんを多く含む原料については、メタン発酵に関する特性の調査が必要。

(全体的な内容に関して)

- ・新しいエネルギー施策のパッケージとして打ち出すことができれば、良いアピールとなる。植物工場の需要量など、関連施策との総合的な調整を進めていくべき。
- ・様々なトラブルに対応できる仕組みを作り上げ、システムの整合性を高めていくことが必要。
- ・大熊町のみならず近隣市町村との連携を進めていくことが重要。